

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」					学科名	建築学科	
科目番号	702	科目名	構造力学2		科目区分	兼任	
科目群	構造	担当講師	中村 円香		履修区分	講義	
開講学年	2年次	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	必修
教科書	建築構造設計概論			教材・参考書			
成績評価	4回の定期試験と演習を総合的に評価する。						

1. 授業概要

不静定構造物の応力の求め方を中心に実務に必要な荷重算定・応力算定などの構造計算の基礎を習得する。同時に、構造力学1の復習を行うことで一級、二級建築士試験の力学範囲を理解する。さらに構造設計と関連づけた授業を行うことで実務との関連を意識させる。

2. 到達目標

一般的に実設計でも用いられる不静定構造物の応力分布を求める方法（一級建築士資格試験の出題範囲含む）を習得すること。フレーム構造物の崩壊の仕方、そのときの荷重を求める手法を知ること、より丁寧な構造設計が可能となることを理解する。木造の構造計算の概要を理解する。

3. 授業計画

前期	
1	授業ガイダンス（授業概要説明）
2	不静定構造とは何か。免震構造ビデオ
3	鉛直荷重時応力算定（剛比）
4	鉛直荷重時応力算定（固定モーメント法手順説明）
5	鉛直荷重時応力算定（固定モーメント法例題1）
6	鉛直荷重時応力算定（固定モーメント法演習問題1）
7	鉛直荷重時応力算定（固定モーメント法演習問題解説）
8	鉛直荷重時応力算定（固定モーメント法演習問題2・解説）
9	まとめ講義
10	試験の復習
11	水平荷重時応力算定（D値法手順説明）
12	水平荷重時応力算定（D値法例題）
13	水平荷重時応力算定（D値法演習問題1）
14	水平荷重時応力算定（D値法演習問題2）
15	一級建築士例題（固定モーメント法・D値法）
16	崩壊荷重 全塑性モーメント 演習
17	崩壊荷重 演習
18	まとめ講義
後期	
1	授業ガイダンス（前期振り返り、後期授業概要説明）
2	試験の解説・DVD
3	構造力学1の復習（反力）
4	構造力学1の復習（応力）
5	構造力学1の復習（トラス）
6	構造力学1の復習（材料力学）
7	構造力学1の復習（座屈）
8	構造力学1の復習（総復習）

9	構造力学1、2 総合問題
10	二次設計（層間変形角、偏心率）
11	二次設計（保有水平耐力の検討 例題）
12	まとめ講義
13	木造の構造計算（壁量例題）
14	木造の構造計算（風例題）
15	木造の構造計算（つりあいのよい壁量例題）
16	自分の設計図面の構造検討
17	自分の設計図面の構造検討
18	検討結果発表、解説

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」					学科名	建築学科	
科目番号	702	科目名	構造力学2		科目区分	兼任	
科目群	構造	担当講師	中村 円香		履修区分	講義	
開講学年	2年次	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	必修
教科書	建築構造設計概論			教材・参考書			
成績評価	4回の定期試験と演習を総合的に評価する。						

1. 授業概要

不静定構造物の応力の求め方を中心に実務に必要な荷重算定・応力算定などの構造計算の基礎を習得する。同時に、構造力学1の復習を行うことで一級、二級建築士試験の力学範囲を理解する。さらに構造設計と関連づけた授業を行うことで実務との関連を意識させる。

2. 到達目標

一般的に実設計でも用いられる不静定構造物の応力分布を求める方法（一級建築士資格試験の出題範囲含む）を習得すること。フレーム構造物の崩壊の仕方、そのときの荷重を求める手法を知ること、より丁寧な構造設計が可能となることを理解する。木造の構造計算の概要を理解する。

3. 授業計画

前期	
1	授業ガイダンス（授業概要説明）
2	不静定構造とは何か。免震構造ビデオ
3	鉛直荷重時応力算定（剛比）
4	鉛直荷重時応力算定（固定モーメント法手順説明）
5	鉛直荷重時応力算定（固定モーメント法例題1）
6	鉛直荷重時応力算定（固定モーメント法演習問題1）
7	鉛直荷重時応力算定（固定モーメント法演習問題解説）
8	鉛直荷重時応力算定（固定モーメント法演習問題2・解説）
9	まとめ講義
10	試験の復習
11	水平荷重時応力算定（D値法手順説明）
12	水平荷重時応力算定（D値法例題）
13	水平荷重時応力算定（D値法演習問題1）
14	水平荷重時応力算定（D値法演習問題2）
15	一級建築士例題（固定モーメント法・D値法）
16	崩壊荷重 全塑性モーメント 演習
17	崩壊荷重 演習
18	まとめ講義
後期	
1	授業ガイダンス（前期振り返り、後期授業概要説明）
2	試験の解説・DVD
3	構造力学1の復習（反力）
4	構造力学1の復習（応力）
5	構造力学1の復習（トラス）
6	構造力学1の復習（材料力学）
7	構造力学1の復習（座屈）

8	構造力学1の復習(総復習)
9	構造力学1、2総合問題
10	二次設計(層間変形角、偏心率)
11	二次設計(保有水平耐力の検討 例題)
12	まとめ講義
13	木造の構造計算(壁量例題)
14	木造の構造計算(風例題)
15	木造の構造計算(つりあいのよい壁量例題)
16	自分の設計図面の構造検討
17	自分の設計図面の構造検討
18	検討結果発表、解説

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」						学科名	建築学科
科目番号	703	科目名	材料力学			科目区分	兼任
科目群	構造	担当講師	豊田正敏			履修区分	講義
開講学年	1年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	必修
教科書	建築構造設計概論			教材・参考書			
成績評価	2回の定期試験、その他平常点や授業への貢献度を加味して総合的に評価する。						

1. 授業概要

部材の断面を安全でかつ経済的なものとなるよう、形や大きさを決める際の構造材料の力学的性質などについて理解する。

2. 到達目標

部材に生ずる力に対して、安全でかつ経済的に部材を設計する基本的解法を習得する。

3. 授業計画

後期	
1	ガイダンス（授業概要説明）
2	3章 部材の性質と応力度 1. 断面の性質 1) 断面一次モーメントと図心
3	2) 断面二次モーメント
4	3) 断面係数
5	4) 断面二次半径 5) 断面の主軸
6	問題演習・解説
7	2. 構造材料の力学的性質 1) 応力度 1-1 垂直応力度
8	1-2 せん断応力度 2) ひずみ度 2-1 縦ひずみ度 2-2 横ひずみ度 2-3 せん断ひずみ度
9	3) 弾性体の性質 3-1 弾性・塑性・弾性係数 3-3 ヤング係数 3-4 せん断弾性係数
10	4) 材料の強さと許容応力度 4-1 応力度-ひずみ度曲線 4-2 許容応力度
11	3. 部材に生ずる応力度 1) 曲げモーメントを生ずる部材 1-1 梁の曲げ応力度
12	1-2 梁のせん断釣合い 1-3 梁のせん断応力度
13	1-4 梁の主応力度 1-5 曲げ材の設計
14	問題演習・解説
15	2) 引張力を生ずる部材
16	3) 圧縮力を生ずる部材 3-1 棒状部材の座屈 3-2 長柱公式
17	3-3 圧縮材の設計 3-4 偏心荷重を受ける圧縮材
18	問題演習・解説

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」				学科名	建築学科		
科目番号	704	科目名	鉄筋コンクリート構造		科目区分	兼任	
科目群	構造	担当講師	殿廣 泰史		履修区分	講義	
開講学年	2年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	必修
教科書	建築構造設計概論			教材・参考書			
成績評価	試験（中間試験、期末試験）60%、課題25%、平常点や授業への貢献度15%						

1. 授業概要

鉄筋コンクリートとは、建築物の骨組を構成する構造材料のうち、主要な材料の一つである。本講では鉄筋コンクリート構造の力学的特性を学び、それらを踏まえた設計法の基礎知識を身につける。

2. 到達目標

鉄筋コンクリート構造の基礎的な許容応力度設計ができるようになる。

3. 授業計画

後期	
1	授業ガイダンス
2	鉄筋コンクリート造の特徴：材料特性など
3	鉄筋コンクリート造の特徴：力学特性など
4	RCラーメン構造 スラブの規定等概略
5	RCラーメン構造 片持ちスラブ主筋の計算解説
6	RCラーメン構造 四辺固定スラブ主筋の計算解説
7	RCラーメン構造 梁の規定等概略
8	RCラーメン構造 梁主筋の計算解説
9	RCラーメン構造 梁帯筋の計算解説
10	RCラーメン構造 梁の総合問題計算解説
11	講義まとめ、問題演習
12	RCラーメン構造 柱の規定等概略
13	RCラーメン構造 柱主筋の計算解説
14	RCラーメン構造 柱帯筋の計算解説
15	RCラーメン構造 柱の総合問題計算解説
16	RCラーメン構造 基礎の規定等概略
17	RCラーメン構造 基礎の計算解説
18	講義纏め、問題演習

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」					学科名	建築学科	
科目番号	705	科目名	鉄骨構造		科目区分	兼任	
科目群	構造	担当講師	豊田 正敏		履修区分	講義	
開講学年	2年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	必修
教科書	最新建築構造設計入門		教材・参考書				
成績評価	2回の定期試験と演習を総合的に評価する。						

1. 授業概要

構造設計の概要と構造物に作用する荷重・外力の種類及び、鋼構造に用いられる鋼材の種類や特性を理解する。

2. 到達目標

鋼構造の知識の習得と共に、接合部および主要な部材を決定するまでの方法論を修得する。

3. 授業計画

前期	
1	授業ガイダンス
2	5章 構造設計の考え方 1. 構造設計の概要 1) 構造設計
3	2) 構造設計の流れ
4	3) 耐震規定「3.」
5	2. 荷重および外力の計算 1) 荷重の種類 2) 荷重の組合せ
6	7章 鋼構造 1. 鋼構造 1) 概要 2) 鋼材 3) 許容応力度
7	2. 許容応力度設計 1) 接合部「8.」 1-1 高力ボルト
8	1-2 溶接
9	2) 引張材の設計「4.」 2-1 設計式 2-2 有効断面積
10	2-3 設計手順
11	3) 圧縮材の設計「5.」 3-1 設計式 3-2 許容圧縮応力度
12	3-3 設計手順
13	4) 部材の設計 4-1 応力と応力度 4-2 幅厚比
14	5) 梁の設計「6.」 5-1 形鋼梁の設計 5-2 許容曲げ応力度
15	5-3 形鋼梁の設計手順
16	6) 柱の設計「7.」 6-1 形鋼柱の設計
17	6-2 形鋼柱の設計手順
18	講義まとめ、演習問題

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」					学 科 名	建築学科	
科目番号	801	科 目 名	建築施工		科目区分	専任	
科 目 群	建築施工	担当講師	尾林 徹		履修区分	必修	
開講学年	1年	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	座学
教 科 書	建築施工教科書			教材・参考書：イラスト建築生産入門			
成績評価	前期、後期の中間と期末における試験と、毎時間ごとに提出する理解確認シートにより評価。						

1. 授業概要

建築施工に関する専門用語、工法などを総合的に学ぶ。

2. 到達目標

工事の流れとそれぞれの工事内容について、必要な知識を修得する。

3. 授業計画

前期	
1	授業ガイダンス
2	建築施工のあらまし
3	建設業の変遷・施工法の変遷
4	請負契約・直営と請負契約・施工者の選定
5	入札・談合
6	見積方式・工事計画
7	工事計画の進め方・工程表
8	ネットワーク工程表
9	仮説工事・登り栈橋
10	各種足場・地下工事
11	土工事
12	山留め
13	杭工事・既製杭
14	場所打ち杭
15	各種杭工法
16	鉄筋コンクリート工事・鉄筋の加工
17	構造図の見方・圧接継ぎ手
18	講義まとめ
後期	
1	授業ガイダンス
2	型枠工事
3	場所打ちコンクリート工事・コンクリートの品質
4	各種コンクリート製品工事・PC・コンクリートブロック・ALC
5	鉄骨系工事・工場加工
6	現場作業
7	木質系工事・材料・金物
8	造作工事
9	枠組み壁工法
10	中間試験前講義まとめ
11	内装仕上げ工事・防水工事・各種防水

1 2	アスファルト防水
1 3	シーリング工事
1 4	タイル工事
1 5	石工事
1 6	屋根工事
1 7	左官工事
1 8	講義まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」					学科名	建築学科	
科目番号	802	科目名	建築材料		科目区分	専任	
科目群	建築施工	担当講師	関村啓太		履修区分	講義	
開講学年	1	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	必修
教科書	廣瀬幸男ほか『絵とき 建築材料』オーム社			教材・参考書 大野義照 監修『ビジュアルハンドブック 必携建築資料 改訂版』実教出版			
成績評価	前期中間試験 22.5%、前期期末試験 22.5%、後期中間試験 22.5%、後期期末試験 22.5%、平常点 10%						

1. 授業概要

建築を構成する材料を包括的にしめし、その性質を習得する。

2. 到達目標

建築設計を行うために使用する建築材料の特性について正しく理解し、素材の選択ができるようにする。

3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション (授業概要説明)
2	1章 建築材料の概要 1・1 建築と建築材料 1 材料と歴史 2 規格 3 環境
3	1・2 分類 (用途別・天然・人工) 1・3 建築材料と性能 1 建築と性能 2 建築材料と品質
4	2章 木材 1 木材の使い方 2 種類と用途 3 特徴
5	4 木取り、規格、等級
6	製材の規格 欠点 5 集成材 新しい材料と可能性
7	木材まとめ
8	2・2 鋼材 1 鋼材の使い方 2 種類 3 製鋼と加工
9	4 鋼の性質と用途 5 鋼材の規格
10	1) 棒鋼 2) 形鋼・鋼管・軽量形鋼 6 ステンレス鋼
11	7 接合 1) 高力ボルト接合 2) 溶接接合
12	鋼材まとめ
13	2・3 コンクリート 1 使い方 2 セメント 3 骨材
14	アルカリ骨材反応 4 水 5 コンクリート ワークビリティ他
15	2) 凝結・硬化過程における性質 3) 硬化コンクリートの性質
16	b) 変形に関せする性質 弾性諸係数 4) 耐久性 (中性化、凍害、塩害) 4) 調合設計
17	水セメント比の決定～単位セメント量～単位粗骨材 6) 混和剤 7) コンクリートの種類
18	レディーミクストコンクリート～プレストレストコンクリート～ブロック
後期	
1	オリエンテーション
2	3章 仕上材料～概要～木、竹製品～合板～フローリング～銘木
3	(2) 造作用集成材 (3) 繊維板、パーティクルボード (4) 竹
4	3.3 セメント・コンクリート・石膏製品 スレート瓦～セメントボード系～窯業系サイディング
5	せっこうボード～ALC板～繊維補強コンクリートパネル
6	3.4 金属製品 1) アルミニウム 2) 銅 3) 亜鉛 板材～線材
7	(4) 各種金物 デッキプレート～溶接金網～ラス網
8	3.5 タイル・レンガ 瓦 衛生陶器
9	3.6 ガラス 製法と種類 ガラスブロック
10	3.7 石材 採石・加工・仕上げ 人造石
11	3.8 左官・吹付材料 セメントモルタル～石膏プラスター～しっくい～土壁～吹付材料

1 2	3・9 畳、繊維製品 カーペット～紙・クロス 3・10 プラスチック材料
1 3	アクリル樹脂～ポリカーボネート プラスチックの性質 3・11 塗料
1 4	(4) 各種塗料 3・12 接着剤 種類と性質
1 5	4章 防水材料 5章 防火・耐火、断熱・防音材料
1 6	住宅計画の仕上表を作る～新しい材料（1）
1 7	住宅計画の仕上表を作る～新しい材料（2）
1 8	講義まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」					学科名	建築学科	
科目番号	803	科目名	建築構法		科目区分	専任	
科目群	施工	担当講師	中島 修		履修区分	講義・演習	
開講学年	1年次	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	必修
教科書	3D図解による建築構法 市ヶ谷出版			教材・参考書			
成績評価	定期試験と演習課題を総合的に評価する。						

1. 授業概要

建物の仕組みはどのようなものか、どのような構造体があるのか等、基礎的な「知識」と「考え方」あるいは「成り立ち」を学ぶ。

2. 到達目標

建築の全体像を理解する手掛りとなる知識を修得する。

3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション (授業概要説明)
2	建築に何を求めるか
3	建築という言葉の意味
4	グループワーク「理想の住まい」①ブレインストーミング
5	グループワーク「理想の住まい」②プレゼンテーション
6	グループワーク「理想の住まい」③レポート
7	名作から建築のしくみを知る 「吉村順三：軽井沢の山荘」ドローイング
8	ドローイング続き
9	建物の性能について
10	建物の土地への固定に関する構法「地業」と「基礎」
11	建物の配置と水平・垂直に関する構法「地縄」と「遣り方」
12	材料と道具
13	在来軸組工法 ①継手・仕口
14	在来軸組工法 ②基礎
15	在来軸組工法 ③土台・大引・根太・床
16	在来軸組工法 ④柱・梁・筋違・貫・間柱
17	在来軸組工法 ⑤小屋組
18	在来軸組み工法⑥まとめ
後期	
1	オリエンテーション
2	屋根の構法
3	外周壁の構法
4	内装の構法
5	階段の構法
6	開口部の構法
7	名作から建築のしくみを知る 「安藤忠雄：住吉の長屋」モデリング
8	モデリング続き
9	企画と構法 その1
10	企画と構法 その2

1 1	企画と構法 その3
1 2	基本設計と構法 その1
1 3	基本設計と構法 その2
1 4	基本設計と構法 その3
1 5	実施設計と構法 その1
1 6	実施設計と構法 その2
1 7	実施設計と構法 その3
1 8	講義まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」				学科名	建築学科
科目番号	804	科目名	建築積算	科目区分	兼任
科目群	建築生産	担当講師	原 弘光	履修区分	講義
開講学年	2年次	開講学期	通年	単位数	4
教科書	建築数量積算基準		教材・参考書 積算テキスト・種積算資料		
成績評価	定期試験と演習課題を総合的に評価する。				

1. 授業概要

建築数量積算基準と例題の解説および演習を行うことで、建築価額の内容や構成などを学ぶ。

2. 到達目標

数量積算技術の算出方法の基礎の修得する。

3. 授業計画

前期	
1	授業概要説明
2	積算概論① 定義、役割、業務の説明。総則の説明
3	直接仮設① 基準の解説、用語の説明
4	直接仮設② 計測・計算、例題の説明
5	土工地業① 基準の解説、用語の説明
6	土工地業② 基準の解説、用語の説明
7	土工地業③ 計測・計算、例題の説明
8	直接仮設・土工地業のまとめ
9	コンクリート型枠② 基準の解説、用語の説明
10	コンクリート型枠② 基準の解説、用語の説明
11	鉄筋① 基準の解説、基準の解説、用語の説明
12	鉄筋② 基準の解説、基準の解説、用語の説明
13	鉄筋③ 基準の解説、基準の解説、用語の説明
14	コンクリート・型枠・鉄筋① 計測・計算、例題の説明
15	コンクリート・型枠・鉄筋② 計測・計算、例題の説明
16	コンクリート・型枠・鉄筋③ 計測・計算、例題の説明
17	問題演習（1）
18	問題演習（2）
後期	
1	オリエンテーション
2	鉄骨① 基準の解説、計測・計算、用語の説明
3	鉄骨② 基準の解説、計測・計算、用語の説明
4	鉄骨③ 基準の解説、計測・計算、用語の説明
5	鉄骨④ 計測・計算、用語の説明
6	仕上① 基準の解説、計測・計算、用語の説明
7	仕上② 基準の解説、計測・計算、用語の説明
8	仕上③ 基準の解説、計測・計算、用語の説明
9	仕上④ 計測・計算、例題の説明
10	仕上⑤ 計測・計算、例題の説明
11	鉄骨・仕上のまとめ

1 2	改修① 基準の解説、計測・計算、用語の説明
1 3	改修② 基準の解説、計測・計算、用語の説明
1 4	内訳書① 作成、単価（刊行物記載確認）
1 5	内訳書② 作成、単価（刊行物記載確認）
1 6	内訳書③ まとめ
1 7	問題演習（1）
1 8	問題演習（2）

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」					学科名	建築学科	
科目番号	803	科目名	建築構法		科目区分	専任	
科目群	施工	担当講師	中島 修		履修区分	講義・演習	
開講学年	1年次	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	必修
教科書	3D図解による建築構法 市ヶ谷出版			教材・参考書			
成績評価	定期試験と演習課題を総合的に評価する。						

1. 授業概要

建物の仕組みはどうなっているのか、どのような構造体があるのか等、基礎的な「知識」と「考え方」あるいは「成り立ち」を学ぶ。

2. 到達目標

建築の全体像を理解する手掛りとなる知識を修得する。

3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション (授業概要説明)
2	建築に何を求めるか
3	建築という言葉の意味
4	グループワーク「理想の住まい」①ブレインストーミング
5	グループワーク「理想の住まい」②プレゼンテーション
6	グループワーク「理想の住まい」③レポート
7	名作から建築のしくみを知る 「吉村順三：軽井沢の山荘」ドローイング
8	ドローイング続き
9	建物の性能について
10	建物の土地への固定に関する構法「地業」と「基礎」
11	建物の配置と水平・垂直に関する構法「地縄」と「遣り方」
12	材料と道具
13	在来軸組工法 ①継手・仕口
14	在来軸組工法 ②基礎
15	在来軸組工法 ③土台・大引・根太・床
16	在来軸組工法 ④柱・梁・筋違・貫・間柱
17	在来軸組工法 ⑤小屋組
18	在来軸組み工法⑥まとめ
後期	
1	オリエンテーション
2	屋根の構法
3	外周壁の構法
4	内装の構法
5	階段の構法
6	開口部の構法
7	名作から建築のしくみを知る 「安藤忠雄：住吉の長屋」モデリング
8	モデリング続き
9	企画と構法 その1
10	企画と構法 その2

1 1	企画と構法 その3
1 2	基本設計と構法 その1
1 3	基本設計と構法 その2
1 4	基本設計と構法 その3
1 5	実施設計と構法 その1
1 6	実施設計と構法 その2
1 7	実施設計と構法 その3
1 8	講義まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」					学 科 名	建築学科	
科目番号	901	科 目 名	設計製図1		科目区分	専任・実務経験教員	
科 目 群	設計製図	担当講師	中島修 星裕一郎		履修区分	実習	
開講学年	1年	開講学期	通年	単位数	8	授業形態	必修
教 科 書	超入門 建築製図			教材・参考書 参考図面を適宜配布			
成績評価	全課題提出による評価100%						

1. 授業概要

製図の基本となる線の引き方、線の種類や太さ、製図記号のルールを学習する。

2. 到達目標

各種図面の表現方法を木造・RC造ごとにコピーとオリジナル設計をすることで修得する。この授業では教員の企業経験を活かし、課題に基づいた実習を基本とするが、実際の敷地を設定し、実務に近いプロセスを経験する課題を行う。担当教員は、設計事務所にて設計・監理業務に従事した経験があり、実務経験に基づいた建築設計教育を展開する。

3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション（用具の使い方など）
2	課題－1：「製図の基本」線，文字，記号の練習
3	「製図の基本」線，文字，記号の練習
4	「製図の基本」線，文字，記号の練習
5	課題－2：製図の表現
6	製図の表現
7	製図の表現
8	課題－3：RCの演習 その1 店舗
9	RCの演習 その1
10	RCの演習 その1
11	RCの演習 その1
12	課題－4：RCの演習 その2 住宅
13	RCの演習 その2
14	RCの演習 その2
15	課題－5：RCカフェの設計 その1
16	RCカフェの設計 その1
17	RCカフェの設計 その1
18	RCカフェの設計 その1
後期	
1	課題－6：木造住宅のコピー その1
2	木造住宅のコピー その1
3	木造住宅のコピー その1
4	木造住宅のコピー その1
5	木造住宅のコピー その1
6	課題－7：木造住宅のコピー その2

7	木造住宅のコピー その2
8	木造住宅のコピー その2
9	木造住宅のコピー その2
10	木造住宅のコピー その2
11	木造住宅のコピー その2
12	課題－8：木造住宅兼店舗の設計
13	木造住宅兼店舗の設計
14	木造住宅兼店舗の設計
15	木造住宅兼店舗の設計
16	木造住宅兼店舗の設計
17	木造住宅兼店舗の設計
18	木造住宅兼店舗の設計

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」				学 科 名	建築学科
科目番号	902	科 目 名	設計製図2	科目区分	専任・実務経験教員
科 目 群	設計製図	担当講師	小川 貴之	履修区分	実習
開講学年		開講学期		単位数	4
授 業 形 態				授業形態	必修
教 科 書	建築製図		教材・参考書 プリント・写真・建築雑誌		
成績評価	各課題の評価と、平常点を総合的に評価する。				

1. 授業概要

各課題を通して、製図方法、技術的課題、空間の把握を学ぶ。

2. 到達目標

コンセプトから具体的建築へと展開する設計のプロセスを身につける。この授業では教員の企業経験を活かし、課題に基づいた演習を基本とするが、実際の敷地を設定し、実際の実務に近いプロセスを経験する課題を行う。担当教員は、設計事務所にて設計・監理業務に従事した経験があり、実務経験に基づいた建築設計教育を展開する。

3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション 講師事例紹介、構造別講義
2	第1課題「集まって住む（集合住宅）」 課題説明、事例調査、敷地模型制作
3	事例発表、エスキスチェック
4	エスキスチェック
5	作図1（平面図・断面図・立面図）
6	作図2（平面図・断面図・立面図）
7	作図3（まとめ）
8	プレゼンテーション準備
9	発表
10	第2課題「保育園の設計」 課題説明、事例調査
11	事例発表、エスキスチェック
12	エスキスチェック
13	エスキスチェック
14	作図1（平面図・断面図・立面図）
15	作図2（平面図・断面図・立面図）
16	作図3（まとめ）
17	プレゼンテーション準備
18	発表

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」					学科名	建築学科	
科目番号	904	科目名	CAD1		科目区分	専任	
科目群	設計製図	担当講師	関村啓太・尾林徹		履修区分	必修	
開講学年	1年	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	実習
教科書	JWCAD 徹底解説		教材・参考書：演習データ				
成績評価	毎回の課題提出と、平常点を加味して総合的に評価する。						

1. 授業概要

JWCAD の基本操作を学ぶ。

2. 到達目標

RC 造の建築図面の作成を通して、CAD の基本操作を修得する。

3. 授業計画

後期	
1	オリエンテーション
2	CAD の基本操作 1 と各部名称と役割
3	CAD の基本操作 2
4	CAD の基本操作 3
5	RC2 階建て平面図の描き方 1
6	RC2 階建て平面図の描き方 2
7	マンションの平面図作図 1
8	マンションの平面図作図 2
9	マンションの平面図作図 3
10	マンションの平面図作図 4
11	マンションの立面図作図 1
12	マンションの立面図作図 2
13	設計製図 1 で作成した図面を JWCAD で作図 1
14	設計製図 1 で作成した図面を JWCAD で作図 2
15	設計製図 1 で作成した図面を JWCAD で作図 3
16	設計製図 1 で作成した図面を JWCAD で作図 4
17	木造平面図の作図 1
18	木造平面図の作図 2

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」					学科名	建築学科	
科目番号	905	科目名	CAD2		科目区分	専任・兼任	
科目群	設計製図	担当講師	関村啓太・尾林徹		履修区分	必修	
開講学年	1年	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	実習
教科書				教材・参考書：プリント、演習データ			
成績評価	毎回の課題提出と、平常点を加味して総合的に評価する。						

1. 授業概要

AUTOCAD の基本操作を学ぶ。

2. 到達目標

課題図面の作成を通して、作図から3D表現までを実務で活用できるレベルまで修得する。

3. 授業計画

後期	
1	オリエンテーション
2	AUTOCADの基本操作と概要（起動・終了方法・画面構成・コマンド入力・マウスなど）
3	基本1_作成コマンド（線分・オブジェクトスナップ・円・円弧・四角形・ポリゴン・楕円など）
4	基本2_修正コマンド（移動・オフセット・鏡像・尺度変更・トリム・延長など）
5	基本3_修正コマンド（複写・回転・ストレッチ・面取り・フィレット・ハッチングなど）
6	基本の復習
7	応用1_（RC階段平面図のトレースなど）
8	応用2_（RC階段断面図のトレースなど）
9	応用3_（RC造便所平面のトレースなど）
10	応用4_（木造便所詳細図など）
11	応用5_（RC階段平面図の設計変更など）
12	応用まとめ_（住宅平面図トレースなど）
13	応用まとめ_（住宅平面図トレースなど）
14	応用まとめ_（住宅平面図トレースなど）
15	発展1_（木造階段詳細、レイアウト画面の使用など）
16	発展2_（3Dモデリング操作の基本）
17	発展3_（3Dレンダリング ファンズワース邸）
18	発展3_（3Dレンダリング ファンズワース邸）

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」				学 科 名	建築学科		
科目番号	1102	科 目 名	パースペクティブ		科目区分	専任・実務経験教員	
科 目 群	デザイン	担当講師	小川 貴之		履修区分	演習	
開講学年	1年次	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	必修
教 科 書	基本・建築製図と表現方法		教材・参考書 プリント				
成績評価	各課題の評価と、平常点を総合的に評価する。						

1. 授業概要

軸測投影法（アクソメトリック）、透視図法（1消点透視法、2消点透視法）の表現方法を学ぶ。

2. 到達目標

視覚表現による他者とのコミュニケーション力の修得する

課題に基づいた演習とするが、有名建築を題材とし、クライアントへのプレゼンテーションに活かせる手法を学ぶ。担当教員は、設計事務所にて設計・監理業務に従事した経験があり、実務経験に基づいたプレゼンテーション手法を指導する。

3. 授業計画

前期	
1	はじめに（自己紹介、授業内容、目標）
2	建築の仕事、パースの仕事、スケッチ演習
3	スケッチ演習発表
4	軸測投影法（アクソメトリック）・ブロック 1
5	軸測投影法（アクソメトリック）・ブロック 2
6	軸測投影法（アクソメトリック）・立方体 1
7	軸測投影法（アクソメトリック）・立方体 2
8	軸測投影法（アクソメトリック）・室内
9	色・着彩（1）
10	色・着彩（2）
11	軸測投影法（課題）
12	軸測投影法（課題）
13	軸測投影法（課題）
14	軸測投影法（課題）
15	軸測投影法（課題）
16	色・着彩（1）
17	色・着彩（2）
18	軸測投影法・まとめ
後期	
1	夏休み課題（講評会）
2	1消点透視法（パース） 1
3	1消点透視法（パース） 2
4	2消点透視法（パース） 1
5	2消点透視法（パース） 2
6	2消点透視法（課題）ビル
7	2消点透視法（課題）ビル
8	2消点透視法（課題）ビル

9	2 消点透視法 (課題) ビル
10	2 消点透視法 (課題) ビル (着彩)
11	2 消点透視法 (課題) ビル (着彩)
12	2 消点透視法 (応用) 1
13	2 消点透視法 (応用) 2
14	2 消点透視法 (応用) 3
15	2 消点透視法 (応用) 4
16	簡易パースの演習 1
17	簡易パースの演習 2
18	消点透視法まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」				学 科 名	建築学科		
科目番号	1105	科 目 名	造形演習		科目区分	専任、兼任	
科 目 群	デザイン	担当講師	中島修、牟禮 智絵子、足立真輝		履修区分	演習	
開講学年	1年次	開講学期	前期	単位数	4	授業形態	選択必修
教 科 書	色彩		教材・色鉛筆・トータルカラー,ポスターカラー等				
成績評価	作品評価、提出状況、平常姿勢から総合的に評価する。						

1. 授業概要

構成作品の制作を通じて、色彩理論などの色彩の基本を学ぶ。

2. 到達目標

建築のアイデアを人に伝えることのできるような描画力を身につける。

3. 授業計画

前期	
1	授業ガイダンス
2	色鉛筆の使い方/描画・混色の仕方/色の三原色/色分けによって構成を考える
3	色の三属性/ トータルカラーの色チップで制作
4	平面構成 直線分割 無彩色と2色相のトーンで表現(1)
5	平面構成 直線分割 無彩色と2色相のトーンで表現(2)
6	同時対比
7	平面構成 イメージ構成
8	平面構成
9	平面構成
10	形の基本:立方体・直方体・円筒・円錐形を描く
11	形の基本:形の複雑な形(石膏)/身近なモノのスケッチ
12	空間を捉え方:幾何形体 2個以上の組み合わせ
13	空間を捉え方:静物スケッチ
14	空間を捉える:室内の空間スケッチ(1)
15	空間を捉える:室内の空間スケッチ(2)
16	人物クロッキー(1)
17	人物クロッキー(2)
18	人物クロッキー(3)

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」				学科名	建築学科
科目番号	1202	科目名	資格講座・学科	科目区分	専任
科目群	特別講座	担当講師	尾林 徹	履修区分	選択
開講学年		開講学期	通年	単位数	4
教科書	2級建築施工 学科試験テキスト		教材・参考書：2級建築施工管理問題解説収録版 2018年		
成績評価					

1. 授業概要

2級建築施工管理技術認定試験、二級建築士の出題傾向を解説し、過去問題を解かせ理解を深める。

2. 到達目標

2級建築施工管理技術認定試験、二級建築士、学科試験の合格。

3. 授業計画

前期	
1	ガイダンス
2	環境①
3	環境②
4	力学①
5	力学②
6	施工共通
7	法規①
8	法規②
9	法規③
10	施工①
11	施工②
12	施工③
13	施工④
14	施工⑤
15	施工⑥
16	施工⑦
17	施工管理①
18	施工管理②
後期	
1	模擬試験①
2	模擬試験②
3	模擬試験③
4	模擬試験④
5	模擬試験⑤
6	二級建築士対策（計画）
7	二級建築士対策（計画）
8	二級建築士対策（計画）
9	二級建築士対策（法規）
10	二級建築士対策（法規）
11	二級建築士対策（法規）

1 2	二級建築士対策（構造）
1 3	二級建築士対策（構造）
1 4	二級建築士対策（構造）
1 5	二級建築士対策（施工）
1 6	二級建築士対策（施工）
1 7	模擬試験①
1 8	模擬試験②

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」					学 科 名	建築学科	
科目番号	1203	科 目 名	資格講座・設計		科目区分	兼任	
科 目 群	特別講 座	担当講師	原田 智章		履修区分	演習	
開講学年	2年次	開講学期	後期	単位数	1	授業形態	選択
教 科 書	なし			教材・参考書：プリント・各材料			
成績評価	授業における提出図面						

1. 授業概要

これまで学んだ製図手法に基づき、与えられた課題を短時間でまとめ上げていく能力を学ぶ。これは、同様な方法で行われる建築士製図試験の練習となるものでもある。

2. 到達目標

課題について、具体的に与えられた条件下において、短時間で構想をまとめる能力を修得する。

3. 授業計画

後期	
1	授業ガイダンス（2級建築士製図試験について）
2	課題① 木造2階建ての併用住宅図面のトレース
3	〃
4	〃
5	〃
6	〃
7	〃
8	課題② RC3階建ての併用住宅のエスキース
9	〃
10	〃
11	〃
12	〃
13	〃
14	課題② RC3階建ての併用住宅の作図
15	〃
16	〃
17	〃
18	〃

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」					学 科 名	建築学科	
科目番号	1401	科 目 名	現代建築論		科目区分	専任	
科 目 群	設計インテ リアコース	担当講師	星裕一郎		履修区分	選択必修	
開講学年	2年	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	なし			教材・参考書			
成績評価	レポート90% 平常点や授業への貢献度10%						

1. 授業概要

現代建築の潮流と展望を、現在国内外で活躍する建築家像と彼らの作品群を通して考える。

2. 到達目標

学生達が自らの言葉で現代建築について論述することで、現代建築の潮流を概観する視点を育てる。

3. 授業計画

前期	
1	ガイダンス（講義概要説明）
2	伊東豊雄
3	妹島和世・西沢立衛 SANAA
4	Rem Koolhaas / O.M.A.
5	m.v.r.d.v
6	Herzog & de meuron
7	安藤忠雄
8	J.Pawson
9	青木淳
10	隈研吾
11	藤本壮介、五十嵐淳、長谷川剛
12	篠原一男、アトリエワン
13	Steven Holl、F.O.Gehry
14	Jean Nouvel、D.Perrault
15	Glenn Murcutt / Case Study House
16	構造家の仕事
17	都市
18	ランドスケープ

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」					学 科 名	建築学科	
科目番号	1104	科 目 名	プレゼンテーション技法		科目区分	専任	
科 目 群	設計インテ リアコース	担当講師	星裕一郎 足立真輝		履修区分	実習	
開講学年	2年	開講学期	前期	単位数	1	授業形態	選択必修
教 科 書	なし			教材・参考書：プリントを適宜配布			
成績評価	課題提出を評価100%						

1. 授業概要

自ら設定したテーマについて、それを表現する1枚のプレゼンボードを制作することで、プレゼンテーションの基礎を学ぶ。

2. 到達目標

エスキス、発表、講評、議論を通し建築デザインに必要な、概念的思考力を身につける。

3. 授業計画

前期	
1	ガイダンス 課題説明
2	課題1 ダイアグラム エスキス
3	提出
4	クリティーク1
5	クリティーク2
6	クリティーク3
7	クリティーク4・発表
8	課題2 コンセプト模型 エスキス
9	提出
10	クリティーク1
11	クリティーク2
12	クリティーク3
13	クリティーク4・発表
14	課題3 プレゼンボード エスキス1
15	エスキス2
16	エスキス3
17	エスキス4
18	最終成果品 提出・講評

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」					学科名	建築学科	
科目番号	1403	科目名	CAD製図		科目区分	兼任	
科目群	設計コース	担当講師	小島善文／伊東達三		履修区分	演習	
開講学年	2年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	必修
教科書	Vectorworks パーフェクトバイブル 2018/2017 対応			教材・参考書			
成績評価	毎回の課題と、授業の理解度で総合的に評価する。						

1. 授業概要

VectorWorks・RenderWorks の操作方法を学習し、図面作成・プレゼンテーションのスキルを学ぶ。
--

2. 到達目標

2D/3Dの各種課題を通して、総合的な表現・操作が出来るようになる。

3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション
2	2D基本 初期設定、図形の書き方、2D基本課題
3	2D基本 図形の書き方、2D基本作図課題
4	2D基本 図形の書き方、2D基本作図課題つづき
5	2D応用 図面の書き方、2D家具図面作図課題
6	2D応用 図面の書き方、2D平面図作図課題
7	2D応用 図面の書き方、2D平面図作図課題
8	2D応用 図面の書き方、2D平面図作図課題
9	3D基本 3D図形の書き方、3D基本課題
10	3D基本 3D図形の書き方、3D基本モデリング課題
11	3D応用 3D建物の書き方、3D建物モデリング課題
12	3D応用 3D建物の書き方、3D建物モデリング課題
13	3D応用 3D建物の書き方、3D建物テクスチャー課題
14	住宅課題 住吉の長屋の平面図を作成
15	住宅課題 住吉の長屋の立面図・断面図を作成
16	住宅課題 住吉の長屋のパースを作成
17	住宅課題 住吉の長屋のパースを作成つづき
18	住宅課題 住吉の長屋の図面・パースをプレゼンテーションする

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」				学科名	建築学科
科目番号	1421	科目名	施工計画	科目区分	専任
科目群	施工コース	担当講師	関村啓太	履修区分	講義
開講学年	2	開講学期	前期	単位数	2
教科書	なし		教材・参考書 なし		
成績評価	中間試験お50%、期末試験50%。				

1. 授業概要

現場管理を行うために実務に即した基本的な知識を学び、安全の確認についての感覚を身につける。

2. 到達目標

現場管理を行うために実務に即した基本的な知識を用いて施工計画を検討できるようになる。

3. 授業計画

前期	
1	
2	施工管理と工事の準備
3	仮設足場の構造
4	仮設足場における施工法と構造
5	仮設足場における安全の確認1
6	仮設足場における安全の確認2
7	仮設足場における安全の確認3
8	型枠工事の概要
9	型枠工事における施工法と構造
10	型枠工事における安全の確認1
11	型枠工事における安全の確認2
12	型枠工事における安全の確認3
13	解体工事における概要
14	解体工事における安全の確認1
15	解体工事における安全の確認2
16	解体工事における安全の確認3
17	安全労働衛生法1
18	安全労働衛生法2

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」					学 科 名	建築学科	
科目番号	1422	科 目 名	施工管理		科目区分	専任	
科 目 群	施 工 コ ー ス	担当講師	中 島 修		履修区分	講義	
開講学年	2年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	選択必修
教 科 書				教材・参考書			
成績評価	プレゼンテーション及びレポートを総合的に評価する。						

1. 授業概要

建築に関わる技術者の基礎知識として、施工管理の仕事の内容や流れを学ぶ。

2. 到達目標

建設業法による分類の各工事業種について理解する。

3. 授業計画

後期	
1	オリエンテーション
2	施工管理とは
3	建設業法について
4	安全管理 その1 グループディスカッション
5	安全管理 その2 プレゼンテーション
6	品質管理 その1 グループディスカッション
7	品質管理 その2 プレゼンテーション
8	工程管理 その1 グループディスカッション
9	工程管理 その2 プレゼンテーション
10	人・物・金の管理
11	工事業種
12	現場監督の仕事
13	就業環境の安全第一
14	環境的要因と人的要因
15	危険予知活動
16	仮設計画（1）
17	仮設計画（2）
18	講義まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」

科目の教育目標・授業計画 「2019年度」					学 科 名	建築学科	
科目番号	1306	科 目 名	卒業設計		科目区分	専任	
科 目 群		担当講師	小川 貴之・中島 修		履修区分	実習	
開講学年	2年次	開講学期	後期	単位数	3	授業形態	必修
教 科 書				教材・参考書 プリント等			
成績評価	提出作品、プレゼンテーションなどの平常点を加味して総合的に評価する。						

1. 授業概要

これまで学んだ計画論、設計手法、製図方法に基づき、自身で設定した課題を作品としてまとめ上げる実践的能力を学ぶ。

2. 到達目標

自身で設定した課題について事例調査・研究を行い、構想をまとめ作品として表現し、発表まで行える能力を修得する。

3. 授業計画

後期	
1	オリエンテーション
2	基本条件の検討（敷地／建築用途／類似建物）
3	基本条件の検討（敷地／建築用途／類似建物）
4	基本条件の決定（敷地／建築用途／類似建物）
5	ケーススタディ（類似建物の動線計画・ゾーニング計画・所要室／敷地の条件・特色）
6	ケーススタディ（類似建物の動線計画・ゾーニング計画・所要室／敷地の条件・特色）
7	ケーススタディ（類似建物の動線計画・ゾーニング計画・所要室／敷地の条件・特色）
8	中間発表
9	エスキス（ゾーニング計画／動線計画／所要室）
10	エスキス（ゾーニング計画／動線計画／所要室）
11	エスキス（ゾーニング計画／動線計画／所要室）・中間提出
12	各図面作成（配置図／平面図／立面図／断面図／3Dプレゼンテーション）
13	各図面作成（配置図／平面図／立面図／断面図／3Dプレゼンテーション）
14	各図面作成（配置図／平面図／立面図／断面図／3Dプレゼンテーション）
15	各図面作成（配置図／平面図／立面図／断面図／3Dプレゼンテーション）
16	全体図面作成（各図面のトータルプレゼンテーション）・模型制作
17	全体図面作成（各図面のトータルプレゼンテーション）・模型制作
18	卒業設計発表会